

がんばろう
南三陸町
復興第34号



発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集 千葉伸孝

志津川地区町づくり協議会「輝くみらいづくり部会」参加報告⑧

9月30日PM6:30 ポータルセンター
(協議事項) 1. 公共交通バスについて

①これまでの取り組み
23年3月東の本大震災により町民バス運休
23年5月災害臨時バス(無料)として運行を再開
24年度「南三陸町地域生活交通計画」を策定
25年度～「町外仮設住宅循環線」の運行開始(H25.4)

- ・「町民バス」に路線の再編(H25.10)
(バス停設置・見直しなど定期的情報発信・災害臨時バス運行と今後の検討開始)
- ・町民バスの有料化(震災前に戻す)
- ・復興に合せ将来ネットワーク・マネジメントの組織構築を検討

②持続可能な公共交通の構築に向けて

1) 町民の日常生活の移動力実態と外出ニーズ
志津川から登米市の移動は、登米市内までは52.4%(75人)登米市民病院までは11.9%(11人)南三陸診療所へは7.7%(11人)があり、さらには総合診療所などもある。

2) 町民の日常生活の移動実態と外出ニーズ
志津川から登米市(佐沼・米谷・南方)へは、84.7%(144人)の移動があり、ウジエ・イオン・コメリ・ホームックなどがある。

3) 地区別の通学状況
登米市へは9人で、志津川へは15人と、気仙沼市へは15人の通学がある。

4) 公共交通などの課題

- ・復興期・発展期に応じた対応が求められ、国の支援事業を有意義に活用していく。
- ・外出は町外への買い物・通院・通学等の足を確保する。
- ・当面は「臨時シャトルバス」の運行が必要で、将来的には有料化にして安心安全な持続可能な運行体制が求められる。
- ・BRTを幹線と位置づけ交通ネットワークの検討

討をし、臨時バスの廃止後代替交通の確保(南三陸町⇄登米市間)

5) 生活交通としての基本

- ・復興を支える交通サービスの提供
- ・「公共」として、車に乗れない高齢者や子供等の安心・快適な日常生活を支える。
- ・生活サービスを「民」の活力により提供し、町民のお出かけ機会創出に貢献する。
- ・分かりやすく乗りたくなるシステム・デザインとする。

6) 地域生活交通の課題

- ・町内仮設住宅循環線の運行開始(平成25年4月1日～)
町民から公立病院への足の確保
- ・町外仮設住宅循環線のダイヤの改正や町民バスに路線の再編(平成25年12月2日)
- ・町民バス16路線のバス停は約60基あり、時刻表のみではなく停車するバス停名と所要時間の目安を表示
- ・バスマップ、時刻表を作成配布して町民バスの周知、利用促進
- ・復興に合せた公共交通ネットワークの再構築や町民バス運賃の有料化がある。また、運賃外の収入源の確保など、マネジメントの組織構築を図る。

【委員間の協議から】

A班・被災前の料金では生活負担が大きい。・フリーで乗れる区間をもうけては。料金は一律にしては。・町外の人は乗れない!それを解消しては。・自転車のレンタルを。

B班・深夜路線バスなど、飲み帰りのバス利用は。・BRTのようにわかりやすい色で、住宅区内ならどこでも乗り降りができる。・水陸両用の遊覧船、外来者もミックス利用とする。

C班・黒字路線をつくり、赤字路線に資金を回す。(町民は100円 外来者は200円)・2台に

1台は車イスでの搭乗が可能に。・防犯的機器を取り入れる。
D班・高齢者のために車底を下げて、町民はできるだけ無料。・町中区間はフリーで乗れて料金も一定で、買い物の待ち時間をつくる。・町外から来た人はタクシーを使っている。観光客も使えるように。・町づくりを並行し、27年から28年までと融通性を持たせる。

第3回輝くみらいづくり部会

10月21日(火)PM6:30 ポータルセンター
(協議事項) ①たくさんの人に住んでもらうためには

- ・皆さんは、南三陸町になぜ住んでいますか?
- ・これから南三陸にたくさんの人に住んでもらうためには、どうすれば良いと思いますか?

《※南三陸町に住みつづける理由》

- 人が素朴で自然が素晴らしい。●海・山・里に恵まれ林業による資源も豊かで適地である。●仙台からの距離感がイイ。●町民の方が外部の方を受け入れてくれる場がある。●町づくりに係れる町。●先祖代々の土地があり、今までの仕事がありコンパクトな町だから。●何もなくなったから、新しい町が造れる。●チャレンジができる場所。

《※南三陸町をどうすれば多くの人を呼び込めますか》

- IターンUターンの人が住める所が欲しい。●担い手の人たちの子供たちの、教育・子育て・福祉施設の充実。●一次産業を物造りで文化で、職を増し働きがいのある町にする。●衣食住の買い物の場を整備する。●地元の産品で良い物を工夫し、地道な産業で人を増やす。●仕事場・住宅地・子育ての環境などの整備をし、企業の誘致も仙台なみの給料を。●いなか町で閉鎖的な体制からの脱却。●産婦人科や小児科の常設。●新しい人を向かえる風土・土壌が必要。●町の需意気を変える祭りがほしい。●学びの場の環境の充実を。●次世代のために、高齢者が楽しく暮らせるように。

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成26年(2014年) 9月の出来事
～地元報道より～

◇南三陸町の戦没者追悼式がベイサイドアリーナを会場に、遺族約150人が集まり恒久平和と復興を誓った。戦没者は合計で848人あり、志津川330人・歌津231人・戸倉161人・入谷126人となっている。

◇JANA南三陸本店と志津川支店が、年度内の完成が理事会で承認された。近く着工し被災事務所の復旧がこれで完了する。

◆気仙沼市教育委員会で全国学力調査公表へ。小学6年・中学3年の国語・算数(数学)の学力結果で、県平均を全てで下回った。(中学国語で全国79.4%が79.8%)知識の活用で大きな開きとなった。

◇南三陸町歌津の若手漁業者が、県沿岸の若手漁業者と手を組み「南三陸ブランド」のホタテを大手飲食店居酒屋と直接取り引きで、販路拡大に取り組んでいる。

◇3日戸倉小学校(児童71人)が来年2学期から使用開始を予定し、地域のシンボルにと着工を行った。

◆本吉・気仙沼中学校駅伝大会で、条南中学校が男女アベックで2年連続優勝した。男子2位に松岩中が入り、女子2位に歌津中が入り、3校4チームが県大会に出場する。志津川中は男子が3位に入った。

◇4日ポータルセンターで「みんなの作品展」が開催され、仮設生活で作った手芸や川柳が展示された。

東大阪市の印刷会社(42社)と「友好支部締結式」



印刷工業組合の東大阪支部と本吉・気仙沼支部の全国で初めての「友好支部締結式」が、南三陸町歌津「コクボ荘」を会場に開催された。

この繋がりへのキッカケは、昨年7月に東大阪の支部総会を、「被災地応援隊」として気仙沼市で開催し、当支部の参加があり、被災地の現状を伝え、「東北がんばれ! がんばれ気仙沼!」と義援金を支部で募り、見舞金仕事支援観光支援を実施した。

東大阪支部は南三陸町に2度来町し、支部へのイベントの商品全部を南三陸町から購入し、宿泊も町内の民宿を利用し、来町するたびに遠藤未希さんの家を訪れ、防災庁舎に焼香と献花を欠かさない。南三陸町の2社(千葉印刷・佐藤印刷)との支援交流から、南三陸町の「観光・商店」支援・交流へとつながりを広げている。

震災から多くの人命や財産が奪われた、その中でまたこうした人と人との出会いや、助け合いの心が、全国の国民間で芽生えた事は、被災から得られた素晴らしい財産として末永く交流が被災住民には必要だ。



◆気仙沼市の災害援護資金8月末で639件14億9080万円に達した。住宅・車・家財の購入活用にと、生活再建の後押しに役立っている。住宅全体流出で350万円が借りられる。所得や被災状況により貸付額が異なる。利子は1.5%で保証人を立てると無利子で、償還期間は13年で6年間の据え置きもある。今後、土地造成完了にあたり、更なる希望者も想定される。

◇男子プロバスケットBJリーグの「仙台89ERS」が、今年も南三陸町で公式戦2試合を開催し、1500人を無料で招待する。

◇歌津婦人会は広島市の土砂災害をテレビで見て「つらさがわかる」と住民に声を掛け、今必要な物資という「タオル」を第一便として180枚を送った。

◆気仙沼への被災者ツアーやボランティアの来客数が徐々に減少している。「被災地から復興の観光へ」のPRや、企画力そして地元らしさが不可欠で、ピーク時から半減したこれからの正念場として、観光振興を目指す。

◇フランスパリに東北福幸祭「環」に、気仙沼市・南三陸町の中学校が食や芸能PRで感謝と魅力を伝えた。南三陸町からは戸倉出身の高校生11人が、戸倉地区の伝統芸能「水戸辺行山流鹿子躍」を披露した。

◆小野寺五典衆議院議員(54才)は、1年8ヵ月の防衛大臣の職を終え、党政調会長代理と復興改革副本部長に就任した。

◇震災から3年半が経過する。南三陸町では死者568人、いまだ不明者が246人いる。仮設には町内52団地と登米市6団地に、合わせて1665世帯4791人が暮らしている。

文字打ちアルバイト募集

パソコンによる内職(短期)

沼田商工団地内 TEL46-3069
千葉総合印刷株式会社

◇9日開催の「9月定例議会」9人が一般質問通告。

◇南三陸町は「過疎地域指定」を受け、過疎自立促進計画をまとめ、県の方針の「過疎対策事業債」の発行がみとめられ、元利償還金の7割が補充される。2年間の計画で年間3億円の国の財政支援が受けられる。復興交付金との財政規模を考慮した額とした。一般財源で不足する事業に支出する。人口減少を踏まえた、振興策を行う。(25年間の人口減少率20.66%と過去3年の財政力指数0.27%が指定の要因)

登米市に「南三陸街」が

南三陸町志津川地区の高台移転の復興計画が予定どおり進むなかで、登米市の人口減少阻止政策として、26年6月1日に「登米市災害公営住宅工事」が始まり、10月20日に完成を目指す。もう一か所市役所近くにも建設する。大きな災害の無い登米市の建設会社は、被害もなく通常の工事の迅速さに驚かされる。



登米市南三陸町南方仮設から災害公営住宅を見に行った。町民の方の情報どおり、一期工事は20日までの工期で進んでいた。多くの建設業者の車が現場に張り付き、仕上げ工事にあたっていた。登米市の建設会社が9つの工区を落札し、一つの会社が3つぐらいの現場を持つ、登米森林組合が元受となり、地元の建設会社に委託しているようだ。南三陸町も森林組合連合会経由での災害住宅建設ながら住宅の建設の形は、南三陸町とは大きく違っていた。

見学に来た南方仮設の住民が「私もここに住みます」と言う。新井田に暮らしていた知人だった。震災後に多くの人への帰郷再建の働き掛け、情報提供を町はしてきたが、もう気持ちは登米市のような。

南方仮設の宮川自治会長はテレビの放送で、多くの入居者が転出し、南三陸町に帰った方は少ないと話していた。

◆気仙沼市水産加工団地集積地は、30haのかさ上げをしているが、予定の83事業所のうち工場稼働は1割の10社にとどまっている。

◇南三陸町の被災農地の復旧は3割の完了にとどまっている。農地の約1130haが被災し、国の災害査定で720haがみとめられ、30年までに整備する。整備後の耕作再開が課題となっている。

◇志津川市街地災害公営住宅の25年2月の意向調査で681戸で整備計画をしてきた。しかし、独自再建した被災者が取りやめた事もあり、12月の調査で2割減の521戸に縮小した。土地の造成は順調に進み、最大で1年早まる見通しとなった。

◇伊里前地区のかさ上げを、来町した復興庁の長嶋副大臣に佐藤仁町長は要望書を提出した。都市計画地域外でかさ上げの事業メニューはない。現在の地区のかさ上げは三陸道の整備の残土を活用している。

◇9月定例会で「11日を安全安心の日」に、まちづくり条例を制定。本年度は町のごみ収集・焼却処分の委託料事業費として1億390万円に過疎債8230万円を充当する。

◇南三陸町の高齢化率31.2%(26年8月末)で、人口1万4316人で65歳以上は4466人が高齢者となった。一人暮らしは11%で100歳以上は5人いた。県内の最高齢は男性が109歳で女性は111歳となっている。

◇南三陸町入谷で「テクテクめぐる縁がわツアー」が、13日~15日まで開催された。「ひころの里」など入谷6カ所の民家の縁側を活用して、ギャラリーとして芸術作品に触れたり、展示をおこなった。

◆気仙沼市の鹿折と南気仙沼地区に、UR都市機構気仙沼復興支援事業の「エントリー制度」で企業誘致希望が判明した。両地区に5社のスーパーマーケットが進出を希望している。URの仲介で企業進出し「にぎわいづくり」の後押しをする。この地区の3割は被災地に戻らないなかで、地権者との交渉が今後の課題だ。その他の出店希望はコンビニなど25社があると言う。

◇15日未明、大久保の「さかなのみうら」から出火、300平方メートルを全焼した。本浜町の店は大地震で流出し、この場所で鮮魚店の再建を果たした。地域や町民から買い物の場として喜ばれていた。

◇7月21日発生の歌津寄木線の土砂災害の復旧工事に、3千万円が補正計上された。

◇南三陸町は再建で空いた仮設住宅を、一部「定住促進策」として町営住宅に活用する。歌津管の浜の「館浜仮設住宅」の15戸で、1棟5戸を歌津中近くのゲイトボール敷地に移設する。今後見込まれるIターンやUターンの方々の定住促進の一助となる。

◇南三陸町の「復興公園」の整備が、当初の24haから4分の1の5.6haに縮小し整備する事を議会で報告した。今後も費用対効果の面で、国と交渉・協議も難航を予想するが、町長は粘り強く要請していくという。八幡側右岸を犠牲者の追悼や教訓を伝える「慰霊の場」を整備する予定だ。また、防災庁舎から志津川駅までの土地に「築山」(海拔20m)を設け、住民・観光客の一次避難所として、1千人を想定していた。整備の縮小にあたり、240平方メートルで1割の120人の避難所の整備となる。

◆気仙沼市の鹿折・南気仙沼の早期工事完了に68億円の増額をUR都市機構が求めている。埋設物撤去や移転費が増している事がその要因と話す。◇南三陸町では、50年以上が経過したり老朽化している橋が8割あり、長寿命化計画を策定する。今後は早期修繕で橋の延命を図っていく。

◇県内一カ所となった南三陸町の「災害ボランティアセンター」は、23年3月26日に開設され26年8月末までに13万5千人が訪れた。ピーク時の年6万500人から、昨年は2万4千人と一定の役割を果たしたと、年度内に閉鎖する。

◇南三陸町のクリーンセンター内のゴミ焼却灰の保管場所が年内に満杯となる。受け入れ先を他の自治体に申し入れるも、原発事故の放射能汚染を懸念して難航している。

◇本吉地域復興計画の進捗について、「完了は4%にとどまる」。見えにくい復興事業の進行により、事業も多種多様に及び、住民が復興事業への関心を持ち、復興を監視する必要がある。

◇南三陸町の防災集団移転の第一号の、戸倉地区藤浜団地で、町内第一号となる住宅が完成した。今年度の防集の高台造成は、7割の団地が完成見込みとなっている。

◆気仙沼で「振り込め詐欺未遂」があり、居合わせた人達が機転を利かし、犯罪を未然に防いだ。市内のATMの前で、携帯電話と通帳を持った男性は、電話による巧妙な振り込め詐欺があり、それを見たATM利用者が、不審に思い声を掛けた。電話を代わり犯行グループと話しをして阻止した。気仙沼警察署では、ATMなどで「払い戻し」の不審な行動を見たら、注意してほしいと話す。その他にも電気料金や建設・リフォームでの、電話・訪問者もあり、「自分で決めないで家族と相談して」と呼びかけている。

◇南三陸町の「緊急雇用事業」が、国の基金事業が今年度で終了するため、26年度で打ち切りとなる事を決めた。25年度は1063人の雇用があり、養殖生産に737人で被災者支援センターなどに87人、町の職員補助として65人があった。人件費の合計は16億3900万円余りであった。今後は事業所と協力しながら、雇用創出を図っていくと話す。◇県漁協は9月29日の生食用カキ出荷を、7~9

割がカキの産卵が終わっていない事を理由に、初出荷を10日間延長する事を決めた。

◇27日の気仙沼・本吉の中学校新人戦において、野球・サッカーなどの多くの選手が必要な種目で、3校合同でチームを編成した。人気のあるスポーツながら、震災による生徒の減少が影響している。各部員は試合ができて嬉しいと話す。

◇南三陸町の被災住民が、登米市に住民票を移した人が1096人にのぼった。宅地造成を待ちきれず、登米市が37件と仙台9件となった。南三陸町で再建意向を決めかねている被災者が690世帯あり、登米市に31世帯で仙台を含めると71世帯が、町外への災害公営住宅の入居を決めている。26年8月末の人口が1万4316人で、被災前と比べ3300人が減少し2割に達している。

◇南三陸町の「敬老会」が24日から開催された。志津川地区のホテル観洋での敬老会には、300名が集まった。久ぶりの再会に会場は笑顔でいっぱいとなった。今年度の77才以上の敬老者は2524人を数え、5人の方が100歳以上となった。

◇南三陸町の波伝谷カキ処理施設が完成した。総工費1億8900万円になり、6分の5の補助金を受けて建設となった。

◆気仙沼市にある県北部船主協会の事務長を、1198万円の業務上横領容疑で逮捕された。余罪総額は1億7千万円となる。

◇志津川市街地の国道45号(2.5K)の災害復旧工事は、水尻川の水尻橋と防潮堤を一体で工事が進み、海拔10mで復旧を目指す。

◇町の意向確認ができていない629世帯に調査を実施し、「迷っている」と98世帯が答えた。被災世帯3400世帯があり、未回答者から537世帯85.4%の回答には、独自再建・災害公営か町外の移転かを、未だにどうするか決めかねている方が多かった。調査結果では「再建済み」が161世帯あり、「再建予定」が277世帯と、7割が戸建や災害公営と、めどを立てていた。

◇南三陸ホテル観洋に、北海道から沖縄まで全国から、「語り部」の仲間が集まった。「全日本語りの祭りin南三陸」が27日開催され、震災の風化が懸念される中、被災の教訓や体験を「語り」の力で全国へ後世へと、語り部を通して伝えていこうと誓った。

◇佐藤町長は震災で台湾より多くの支援を受け、感謝の気持ちを伝えに、そして観光のPRを兼ねて台湾訪問をした。町は観光立町をめざし、海外からの観光客誘致に、県・町内の観光関係者12人が同行した。

(海花復興の会)

~10月14日~震災の海からの復興!



「東日本大震災の復興は石巻から」が合言葉で、石巻市の北上川中州は1.3mも地盤沈下し、その門脇の小さなテントから

ボートの製造が始まり、震災から3年半で一つのステップとして新造船が完成した。

今回は地元被災造船会社を手助けしての船舶製造を石巻から始めた。その第一号の「Good Go ET180」の完成進水式が開催された。第一号は静岡のオーナーに引き渡された。決して漁師としてではなくレジャーとしての購入と言う。

豊潤な海の可能性を最大限に生かし、震災からの復興が「海洋平和の会」の最大の目標です。志津川地区には「ポートパーク」の計画があり、町民と海との係わりで浜辺の再生に向かっていく。

大島青果・焼鳥なっちゃん 移転オープン!

